



南林間小だより

大和市南林間9-3-2

☎ 275-3141



6月号

5月24日（水）の3校時（10：35～）、50周年記念事業の一つとして、植樹式を行いました。学校を代表して6年生が参加し、場所は「思いやりの石」のとなりに「ハナミズキ」を植えました。

「ハナミズキ」の花言葉を調べると、「永続性」「返礼」という意味がありました。

「永続性」とは、その状態が長く続くことを言います。「ハナミズキ」は、通常の木と比べると成長するスピードがゆっくりしていますが、着実に大きくなっていくことからつけられた花言葉だそうです。

「思いやりの石」のとなりに、この木を植えましたが、思いやりの心は、じっくりと育っていくものだと思いますし、着実に育ててほしい心でもあります。このハナミズキはこうした願いにピッタリな木です。

また、「返礼」とは「自分にとってよいことをしてくれた相手に感謝し、それにふさわしい行為をして返す。」ことです。

子どもたちが安心して学校生活を送れるのも、いつも地域の方々や保護者の方々が見守ってきたからです。そうした方々のおかげで、今年50周年を迎えることができます。子どもたちを支える方々に感謝をしながら、南林間小学校の明るい未来を創っていくという願いも込めて、子どもたちとともに育てていきたいと思えます。

（校長 大谷 幸司）



5月8日から新型コロナウイルス感染症への対応も大きく変わり、ゴールデンウィークは旅行者が大幅に増えたとのニュースを聞きました。旅は日常から抜け出し、その土地ならではの雰囲気の中で好奇心を掻き立てられたり、逆にゆったりとした時間を得たりと新しい発見を多く与えてくれます。

本校でも、5月に入り遠足や町たんけん、修学旅行…と校外に出かけています。校外学習は見学や体験を通して机上の学習だけでは得られない経験を与えてくれます。また、役割分担やグループ活動を通して、教室では見られなかった友だちの新たな一面に触れることもできます。

校外学習は子どもたちの視野を広げる大切な機会と考えます。友だちの良さを発見し絆を深めるとともに、体験を通して心豊かに育ってほしいと思えます。

（教頭 壺井 里英）